

從屬節表現の日台比較

趙順文

東吳大学副教授

【中文摘要】本文以新約聖經「路加福音」之日文版本二種，即口語譯（1954年刊），新共同譯（1987年刊），跟台文版本互相比較，以了解此兩種語言之差異。附帶地也觀察相隔將近 30 多年間的日文間差異。

方法上以日文版本口語譯為中心將所有關係子句表現抽出，並以同樣章節的台文版及日文版新共同譯加以對照比較。結果發現到①日文關係子句表現約有 20 % 強，在台文中以其他的形式來表現②句子構造為存在句或有「日」「所」「人」等時，日文特好關係子句表現③日文好用動詞表現，而台文好用名詞表現④相隔 30 多年的日文於詞法上稍有差異外，句法上的關係子句表現仍保持一致，無太大變化。而基本上這四點，皆緣於日文為了使整句主語（或主題）保持一致，而特別好用關係子句表現。

【關鍵字】日台文・關係子句・路加福音・口語譯・新共同譯

1. はじめに

小稿の目的は二つある。一つは『新約聖書』の一巻である「ルカによる福音書」を日本語訳に翻訳した二つのものと、台湾語に翻訳したものとを対比することによって、從屬節表現における日台語の差異を浮き彫りにすることであり、今一つ

は日本語訳に翻訳した二つのものである「口語訳」（1954年刊）と「新共同訳」（1987年刊）との従属節表現をも対比することによって現代日本語の変遷の一端をうかがうことである。

ご承知のように27巻から成る『新約聖書』は国境を越えて世界でもっともよく読まれている不朽の作である。日本では明治以来、「文語訳」、「口語訳」（1954年刊）各2回が試みられ、近年、カトリックとプロテスタントの協力による「共同訳」に修正を加えた「新共同訳」（1987年刊）ができあがった。^① 小稿ではこの「口語訳」と「新共同訳」及び台湾語訳を資料として使うことにした。^② もっともこれらの新約聖書は原文であるギリシア語からそれぞれ別に、日本語と台湾語に翻訳されたものなので、注意したい点である。

2. 比較の対象と方法

まず、日本語「口語訳」の一巻である「ルカによる福音書」の従属節表現の語句をすべて抽出した。抽出するに当たって名詞を修飾する述語があれば一つの従属節と認められる原則に従う。つまりな詞（形容動詞）・名詞述語は「である」、形容詞述語は「い」、動詞述語は原形というように終止形ないしこれに準じる活用形で終わるものは従属節と見なされるのである。例えば「ダビデ家の出であるヨセフという人」「わたしたちの間に成就された出来事」のように点線は従属節、実線は被修飾語たる名詞をそれぞれ示す。但し、比較を簡潔に行うために①「とき」「こと」「あいた」「途中」「ところ」「ため」などの形式名詞を修飾する述語②「—の」と「—という」という表現は従属節と認めないことにした。

① 実際『新約聖書』「共同訳」が出たのは1978年のことである。つまり、「共同訳」が出版されて以来、9年の歳月を経て、やっと「新共同訳」が誕生したのである。

② 台湾語になじまない人のために、わざとハワイ台湾語教会編『ルカによる福音書』「ローマ字まじり文訳」を資料に使うことにした。

例えば「十分に知っていただきたいため」「心の思い」「ヨセフという議員」。もっとも「お聞きになっている事」の「事」は一般名詞と扱われているから、これにかかる「お聞きになっている」は一つの従属節と数えられる。

かくて24節から成る「ルカによる福音書」口語訳の従属節表現の数は下表にまとめられる。但し、一つの文例に二つあるいは二つ以上の従属節表現がある場合は原則として従属節一つと扱われる。^③

口語訳の文例数とその従属節数

節番号	文例数	従属節数	節番号	文例数	従属節数
1	80	15	14	35	15
2	52	14	15	32	10
3	38	7	16	31	8
4	44	13	17	37	9
5	39	15	18	43	14
6	49	27	19	48	12
7	50	15	20	47	11
8	56	15	21	38	9
9	62	20	22	71	21
10	42	15	23	56	17
11	54	24	24	53	14
12	59	25	合計 1151 354		
13	35	9	平均 30.7%		

③聖書に出る番号付きの文例のすべてが必ずしも句点で終わると限らないことに注意されたい。

上の表で「ルカによる福音書」口語訳の文例 30 % 強は従属節表現を伴うものであることが分かる。

第二に、この口語訳に出る従属節表現の部分を台湾語訳と対比させて、口語訳では従属節表現であるのに対し、台湾語訳では別の表現がなされているものだけを一一抽出した上で、整理・分類して、さらに新共同訳をこれに付け加えた。その結果、比較対象となる文例数ができあがり、従属節表現全体の20%強を占めている。

3. 比較結果とその分析

本節では比較文例をいくつかの下位グループに分けてその内容を分析してみよう。但し、小稿の目的は日台語比較が主で、日本語の変遷の把握が従であるので、文例は上述した手順で口語訳・台湾語訳・新共同訳の順に対照にした。

3.1 被修飾語が存在文の一成分の場合

まず次の文例を見られたい。

- | | | |
|----------------|------------------|-----------------------|
| (1)イエスが言われた、「あ | 伊就講：「某一個債主有 | イエスはお話しになった。 |
| る金貸しに金をかりた人 | 兩人欠伊ê 債，一個欠伊 | 「ある金貸しから、二人 |
| がふたりいたが、ひとり | 五百ê 銀仔，一個欠五十 | の <u>人</u> がお金を借りていた。 |
| は五百デナリ、もうひと | 。 | 一人は五百デナリオン、 |
| りは五十デナリを借りて | | もう一人は五十デナリオ |
| いた。(7-41) | | ンである。 |
| (2)彼は十二歳ばかりになる | 因為伊有孤生ê 查某仔， | 十二歳ぐらいの一人娘が |
| ひとり娘があったが、死 | 約略12歳，teh beh 死， | いたが、死にかけていた |
| にかけていた。ところが、 | 耶穌行去ê 時，眾人 oe | のである。イエスがそこ |
| イエスが出て行かれる途 | khoeh伊。 | に行かれる途中、群衆が |
| 中、群衆が押し迫ってき | | 周りに押し寄せて来た。 |

た。(8-42)

- (3)ここに、十二年間も長血 有一個婦人人血漏12年， ときに、十二年このかた
をわずらっていて、医者 因為請醫生家賄用到了， 出血が止まらず、医者に
のために自分の身代をみ 無人會醫好伊。 全財産を使い果たしたが、
な使い果してしまったが、 だれからも治してもらえ
だれにもなおしてもらえ ない女がいた。
なかった女がいた。(8-43)

- (4)そこに十八年間も病気の Tū tng有一個婦人人，患 そこに、十八年間も病の
霊につかれ、かがんだま 著邪神致病十八年久，ún 霊に取りつかれている女
ま、からだを伸ばすこと ku攏膾伸直。 がいた。腰が曲がったま
の全くできない女がいた。 ま、どうしても伸ばすこ
とができなかった。
(13-11)

- (5)そこでイエスは人々にむ 耶穌對個講：「Tiōh盡力 「狭い戸口から入るよう
かって言われた、「狭い 對oēh ê入去；因為我 kā に努めなさい。言ってお
戸口からはいるように努 恁講，beh有chōe chōe人 くが、入ろうとしても入
めなさい。事実、はいろ 求人也膾得入。 れない人が多いのだ。
うとしても、はいれない
人が多いのだから。(13-24)

- (6)あなたがたに言って置く 因為我kā恁講，前所請ê 言っておくが、あの招か
が、招かれた人で、わた 無一人會得食我ê 筵席。 れた人たちの中で、わた
しの晩餐にちずかる者は 』 しの食事を味わう者は一
ひとりもないであろう』 人もいない。』」
』。(14-24)

- (7)「あなたがたのうちに、 恁中間啥物人有一百隻羊 「あなたがたの中に、百

百匹の羊を持っている者，失落一隻kiām無將九十
 がいたとする。その一匹 九隻且kā 放tī 出裡，去
 がなくなったら、九十九 chhē所失落ê到得嗎？
 匹を野原に残しておいて、
 いなくなった一匹を見つ
 けるまでは捜し歩かない
 であろうか。(15-4)

匹の羊を持っている人が
 いて、その一匹を見失っ
 たとすれば、九十九匹を
 野原に残して、見失った
 一匹を見つけ出すまで捜
 し回らないだろうか。

(8)彼は、豚の食べるいなご 愛將猪所食ê 豆莢來止飢
 豆で腹を満たしたい人と，也無人hō伊食。
 思うほどであったが、何
 もくれる人はなかった。
 (15-16)

彼は豚の食べるいなご豆
 を食べても腹を満たした
 かったが、食べ物を与え
 る人は誰もいなかった。

(9)そこで彼は本心に立ちか 伊醒悟就講：『我ê 老父
 えって言った、『父のと 母有佑chōe長工，米糧食
 ころには食物のあり余っ 有chhuⁿ，若是我tī chia
 ている雇人が大ぜいいる teh beh餓be ah。
 のに、わたしはここで飢
 えて死のうとしている。
 (15-17)

そこで、彼は我に返って
 言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇
 人に、あり余るほどパン
 があるのに、わたしはこ
 こで飢え死にしそうだ。

(10)アブラハムは言った、『 亞伯拉罕kā伊講：『個若
 もし彼らがモーセと預言 m 聽摩西及先知，就有人
 者とに耳を傾けながら、 對死人中koh活，個也m受
 死人の中からよみがえっ 苦勤。』
 てくる者があっても、彼
 らはその勧めを聞き入は
 しないであろう』」。(

アブラハムは言った。『
 もし、モーセと預言者に
 耳を傾けないのなら、た
 とえ死者の中から生き返
 る者があっても、その言
 うことを聞き入れはしな
 いだろう。』」

16-31)

(11)しかし、あなたがたは両 恁也beh hō' 父母、兄弟 あなたがたは親、兄弟、
親、兄弟、親族、友人に 、親戚、朋友出賣；恁中 親族、友人にまで裏切ら
さえ裏切られるであろう。間有 ê beh hō' 恁害死、 れる。中には殺される者
また、あなたがたの中で もいる。
殺されるものもあろう。

(21-16)

口語訳の文例(1)~(11)から明らかなように、これらの文例はいずれも存在文であることに注意しよう。つまり、(1)では「人がふたりいた」、(2)では「娘があった」、(3)では「女がいた」、(4)では「女がいた」、(5)では「人が多い」、(6)では「者はひとりない」、(7)では「者がいた」、(8)では「人はなかった」、(9)では「雇人が大ぜいいる」、(10)では「死人の中からよみがえってくる者があっても」、(11)では「ものもあろう」といいふのに、[—に—が]の構文が述べられており、しかも「—が」の名詞組に連体修飾語が付いている一種の従属節表現がなされている。^④ 口語訳では文例はいずれも従属節表現であるのとは対照的に、台湾語訳では文例は従属節表現なしの形で叙述されている。新共同訳では(1)(9)を除いて、(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)(10)(11)の文例はどれも口語訳と同様に従属節表現を取っている。言い換えれば、従属節表現が少ないだけに文が分かりやすいという傾向は現代日本語にあるが、実際の言語活動において、台湾語より従属節表現が多用されることには何らの変わりはない。^⑤ 特に構文が存在文の場合はこの傾向が一層目立ってくる。しかも後述のように一般名詞「人」「者」の類が好んで従属節表現を取っているのに拍車を

④「人が多い」も一種の存在文と認められるし、「人はなかった」も存在文の主題化と

に拍車をかけて、存在文の必須成分の中に「人」の名詞組があるときはなおさら、この従属節表現偏重の現象が浮き彫りにされるのである。ちなみに口語訳では「十八年間も病気の霊につかれ、かがんだまま、からだを伸ばすことの全くできない女」は三つの連体修飾語を伴うのに対し、新共同訳では「十八年間も病の霊に取りつかれている女」は一つだけのを取っている。

3.2 被修飾語が「日」「所」「人」の場合

被修飾語が「日」「所」「人」の場合は従属節表現が多用されるのが日本語の特徴のようである。次の文例を参照をりたい。

- | | | |
|---|---|---|
| (12) それから、 <u>モーセ律法に</u>
<u>よる彼らのきよめの期間</u>
が過ぎたとき、両親は幼
な子を連れてエルサレム
へ上った。(2-22) | 照摩西ê人律法，恁清氣ê
旦已經滿，就抱嬰仔上耶
路撒冷beh獻hō主。 | さて、 <u>モーセの律法に定</u>
<u>められた彼らの清めの期</u>
<u>間</u> が過ぎたとき、両親は
その子を主に献げるため、
エルサレムに連れて行っ
た。 |
| (13) しかし、 <u>花婿が奪い去ら</u>
<u>れる日</u> が来る。その日に
は断食をするであろう。
(5-35) | 若是日子beh到，新kiān
婿對個中間 hō 人搶走去
，tī hiah ê日個就beh禁
食。 | しかし、 <u>花婿が奪い取ら</u>
<u>れる時</u> が来る。その時に
は、彼らは断食すること
になる。 |
| (14) いつかは、 <u>敵が周囲に壘</u>
<u>を築き、おまえを取りか</u>
<u>こんで、四方から押し迫</u>
<u>り、おまえとその内にい</u>
<u>る子らとを地に打ち倒し、</u>
<u>城内の一つの石も他の石</u>
<u>の上に残して置かない日</u> | 因為時日beh到，你ê對敵
beh 周圍起土城來圍你，
四面困苦你；koh beh hō
你及你内中ê kiān攏到地
；無留二塊石相疊；因為
你不知眷顧你ê日。」(19
-43、44) | やがて <u>時</u> が来て、 <u>敵が周</u>
<u>りに堡壘を築き、お前を</u>
<u>取り巻いて四方から攻め</u>
<u>寄せ、お前とそこにいる</u>
<u>お前の子らを地にたたき</u>
<u>つけ、お前の中の石を残</u>
<u>らず崩してしまうだろう。</u> |

が来るであろう。それは、
おまえが神のおとずれの
時を知らないでいたから
である」。(19-43.44)

それは、神の訪れてくだ
さる時をわきまえなかつ
たからである。」

- (15)「あなたがたはこれらの
ものをながめているが、
その石一つでもくずされ
ずに、他の石の上に残る
こともなくなる日^①が、来
るであろう」。(21-6)

彼時耶穌講：「恁所看見 あなたがたはこれらの物
hiah ê 物，日子beh到，に見とれているが、一つ
tī chia beh 無一塊石留 の石も崩されずに他の石
tī石ê 頂面，連一塊也無 の上に残ることのない日
猶未chhia落去ê。」 が来る。

- (16)それは、聖書にしるされ
たすべての事が実現する
刑罰の日であるからだ。

因為chiah ê日は申冤ê日 書かれていることがこと
，hō' 所有記載ê攏應驗。 ごとく実現する報復の日
だからである。

(21-22)

- (17)さて、過越の小羊をほふ
るべき除酵祭の日^②がきた
ので。(22-7)

除酵節，應該thâi搬過節 過越の小羊を屠るべき除
ê羊羔，彼個日已經到。 酵祭の日が来た。

- (18)それからお育ちになった
ナザレに行き、安息日に
いつものように会堂には
いり、聖書を朗読しよう
として立たれた。(4-16)

耶穌到拿撒勒，就是伊長
成ê所在；tī安歇日入去
會堂，就khia teh，beh
讀聖經。

イエスはお育ちになった
ナザレに来て、いつもの
とおり安息日に会堂に入
り、聖書を朗読しようと
してお立ちになった。

- (19)すると預言者イザヤの書
が手渡されたので、その
書を開いて、こう書いて

伊；伊就掀開，chhē著一
個所在，記講：

預言者イザヤの巻物が渡
され、お開きになると、
次のように書いてある個

ある所を出された。(4

-17)

(20) そしてオリブという山に 耶穌行近伯法其及伯大尼
沿ったベテパゲとベタニ , tī彼個君叫橄欖ê 山 ,
ヤに近づかれたとき、ふ 就差二個學生講:
たりの弟子をつかわして
言われた。(19-29)

(21) この日、ふたりの弟子が、 Siāng彼日學生有二人去
エルサレムから七マイル 一個郷社 , 名以馬忤 , 離
ばかり離れたエマオとい 耶路撒冷25里。
う村へ行きながら。(24
-13)

(22) そして急いで行って、マ 個就緊緊去 , 果然chhe著
リヤとヨセフ、また飼葉 馬利亞及約瑟 , koh看見
おけに寝かしてある幼な 嬰仔睷tī馬槽裡。
子を探しあてた。(2-16)

(23) さて、ヨハネは、彼から 真choē人出來beh受約翰ê
バプテスマを受けようと 洗禮 , 伊就對個講 : 「看
して出てきた群衆にむか 蛇ê 類ah , 啥人指示恁閃
って言った、「まむしの 避將來ê受氣ah ?
子らよ、迫ってきている
神の怒りから、のがれら
れると、おまえたちにだ
れが教えたのか。(3-7)

(24) あなたの頬を打つ者には 人掘你這旁ê chhùi phoé

所が目に留まった。

そして、「「オリブ畑」
と呼ばれる山のふもとに
あるベトファグとベタニ
アに近づいたとき、二人
の弟子を使いに出そうと
して。

ちょうどこの日、二人の
弟子が、エルサレムから
六十スタディオン離れた
エマオという村へ向って
歩きながら。

そして急いで行って、マ
リアとヨセフ、また飼い
葉桶に寝かせてある乳飲
み子を探し当てた。

そこでヨハネは、洗礼を
授けてもらおうとして出
て来た群衆に言った。「
蝮の子らよ、差し迫った
神の怒りを免れると、だ
れが教えたのか。

あなたの頬を打つ者には、

ほかの頬をも向けてやり、
あなたの上着を奪い取る
者には下着をも拒むな。

(6-29)

(25)それは、地を深く掘り、
岩の上に土台をすえて家
を建てる人に似ている。

(6-48)

(26)しかし聞いても行わない
人は、土台なしで、土の
上に家を建てた人に似て
いる。(6-49)

(27)くこれを聞いた民衆は皆、
また取税人たちも、ヨハ
ネのパプテスマを受けて
神の正しいことを認めた。

(7-29)

(28)すると同席の者たちが心
の中で言いはじめた、「
罪をゆるすことさえする
この人は、いったい、何
者だろう」。(7-49)

(29)陸にあがられると、その
町の人で、悪霊につかれ
て長いあいだ着物も着ず、
家に居つかないで墓場に

，就著越彼旁ng 伊。人
thèh恁ê外衫連内衫也莫
得擋伊。

伊就是親像人起厝，掘hō
伊深，下地基ti石磬頂；

若是聽了無行ê 人，是親
像人起厝ti土頂，無下地
基。

眾百姓及稅務員，已經受
約翰ê 洗禮，一下子聽見
這，就稱呼上帝做義。

同席ê 人心內講：「這個
teh赦罪ê是啥物人？」

耶穌離開船上岸，有一人
對城裡出來tū著伊，是一
個患著鬼 ê，久久無穿衫
，無tiàm厝內，獨獨tiàm

もう一方の頬をも向けな
さい。上着を奪い取る者
には、下着をも拒んでは
ならない。

それは、地面を深く掘り
下げ、岩の上に土台を置
いて家を建てた人に似て
いる。

しかし、聞いても行わな
い者は、土台なしで地面
に家を建てた人に似てい
る。

民衆は皆ヨハネの教えを
聞き、徴税人さえもその
洗礼を受け、神の正しさ
を認めた。

同席の人たちは、「罪ま
で赦すこの人は、いった
い何者だろう」と考え始
めた。

イエスが陸に上がられる
と、この町の者で、悪霊
に取りつかれている男が
やって来た。この男は長

- ばかりいた人に、出会わ tī墳墓中。
れた。(8-27) い間、衣服を身に着けず、
家に住まないで墓場を住
まいとした。
- (30) 主人が婚宴から帰ってき 恁著親像人 teh 等候 個 主
て戸をたたくとき、すぐ 人對婚姻 ê 筵桌 tō 來；到
あけてあげようと待って 地拍門 thang 連鞭 kā 伊開
いる人のようにしていな 。
さい。(12-36) 主人が婚宴から帰って来
て戸をたたくとき、すぐ
に開けようと待っている
人のようにしていなさい。
- (31) そこで主が言われた、「主講：「啥物人是盡忠智
主人が、召使たちの上に 識 管家，主人 beh 設立來
立てて、時に応じて定め 管理伊家内 ê 人，照時發
の食事をそなえさせる忠 米糧 hō 個 ah？
実な思慮深い家令は、い
ったいだれであろう。(12-42) 主は言われた。「主人が
召し使いたちの上に立て
て、時間どおりに食物を
分配されることにした忠
実で賢い管理人は、いっ
ただれだろうか。
- (32) 主人のこころを知ってい 奴僕知伊 ê 主人 ê 意思，也
ながら、それに従って用 無備辦，也無順伊 ê 意思
意もせず勤めもしなかっ 來行，beh 受拍 khah chōe
た僕は、名くむちうたれ 下。
るであろう。(12-47) 主人の思いを知りながら
何も準備せず、あるいは
主人の思いどおりにしな
かった僕は、ひどく鞭打
たれる。
- (33) それだのに、遊女どもと 總是，你這個 kiāⁿ，交陪
一緒になって、あなたの 妓女，一盡毀壞你 ê 産業
身代を食いつぶしたこの ，一下 tō 來你就為著伊
あなたの子が帰ってくる thâi 肥 ê 牛仔。
と、そのために肥えた子
牛をほふりなさいました ところが、あなたのあの
息子は、娼婦どもと一緒
にあなたの身上を食いつ
ぶして帰って来ると、肥
えた子牛を屠っておやり
になる。』

』。(15-30)

(34)あなたがたのうちのだれ 「恁中間啥物人有奴僕
かに、耕作か牧畜かをす teh 作園抑是顧羊，對園
る僕があるとする。その 裡tò來kiám beh kā 伊講
僕が畑から帰って来たと : 『即時坐來。』食嗎？
き、彼に『すぐきて、食
卓につきなさい』と言う
だろう。(17-7)

(35)イエスは言われた、「よ 耶穌kā個講：「我實在kā
く聞いておくがよい。だ 恁講，若有人為著上帝ê
れでも神の国のために、 國來放sak 厝宅，抑是某
家、妻、兄弟、両親、子 ，抑是兄弟，抑是爸母，
を捨てた者は。(18-29) 抑是kiáⁿ兒，

(36)そこで、彼らは機会をう 就當等伊，也差奸細線民
かがい、義人を装うまわ 假坐義人，beh掠伊ê話縫
し者どもを送って、イエ thang將伊交付總督ê政治
スを総督の支配と權威と 及權柄。
に引き渡すため、その言
葉じりを捕えさせようと
した。(20-20)

(37)「それは、どんなことか 伊就kā個講：「啥物事ah
」と言われると、彼らは ?」個kā伊講：「就是拿
言った、「ナザレのイエ 撒勒人耶穌ê 事，伊是先
スの事です。あのかた 知人，tī上帝及眾百姓ê
は、神とすべての民衆と 面前所請所行有權能；
の前で、わざにも言葉に

あなたがたのうちだれか
に、畑を耕すか羊を飼う
かする僕がいる場合、そ
の僕が畑から帰って来た
とき、『すぐ来て食事の
席に着きなさい』と言う
者がいるだろうか。

イエスは言われた。「は
っきり言うておく。神の
国のために、家、妻、兄
弟、両親、子供を捨てた
者はだれでも。

そこで、機会をねらって
いた彼らは、正しい人を
装う回し者を遣わし、イ
エスの言葉じりをとらえ、
総督の支配と権力にイエ
スを渡そうとした。

イエスが、「どんなこと
ですか」と言われると、
二人は言った。「ナザレ
のイエスのことです。こ
の方は、神と民全体の前
で、行いにも言葉にも力

も力ある預言者でしたが。

(24-19)

(38) そのころ、全世界の人口 當彼時該撒亞古土督有出
調査をせよとの勅令が、 公告，命令全國ê 人擁報
皇帝アウグストから出た。戸口。

(2-1)

(39) しかし、人の子は地上で 總是 beh hō 恁人知人子
罪をゆるす権威を持って tī 地有權thang赦免罪。
いることが、あなたがた
にわかるために」 (5-

24)

(40) わたしはあなたがたに、 我已經hō 恁有權thang踏
へびやさそりを踏みつけ、蛇及蝎仔虫，koh 贏過對
敵のあらゆる力に打ち勝 敵攏總ê 氣力，決斷無一
つ権威を授けた。だから、項會害著恁。
あなたがたに害をおよぼ
す者はまったく無いであ
ろう。 (10-19)

(41) きょうは野にあって、あ Taⁿ山裡ê 草，今仔日tī-
すは炉に投げ入れられる teh，明仔載hiat tī火爐
草でさえ、神はこのよう，上帝尚且hō 伊穿到án
に装って下さるのなら、 ni何況恁，小信ê人ah？
あなたがたに、それ以上
よくしてくださらないは

のある預言者でした。

そのころ、皇帝アウグス
トゥスから全領土の住民
に、登録をせよとの勅令
が出た。

人の子が地上で罪を赦す
権威を持っていることを
知らせよう。」そして、
中風の人に、「わたしは
あなたに言う。起き上が
り、床を担いで家に帰り
なさい」と言われた。

蛇やさそりを踏みつけ、
敵のあらゆる力に打ち勝
つ権威を、わたしはあな
たがたに授けた。だから、
あなたがたに害を加える
ものは何一もない。

今日は野にあって、明日
は炉に投げ込まれる草で
さえ、神はこのように装
ってくださる。まして、
あなたがたにはなおさら
のことである。信仰の薄

ずがあらうか。ああ、信

い者たちよ。

仰の薄い者たちよ。(12

-28)

- (42)主は振りむいてペテロを 主越頭看彼得，彼得就記 主は振り向いてペトロを
見つめられた。そのとき 得主ê 話，有怎樣kā伊講 見つめられた。ペトロは、
ペテロは、「きょう、鶏 : 「今仔日雞啼ê 大先， 「今日、鶏は鳴く前に、
が鳴く前に、三度わたし 你beh三擺認我。」 あなたは三度わたしを知
を知らないと言うであろ らないと言うだろう」
う」と言われた主のお言 と言われた主の言葉を思
葉を思い出した。(22- 思い出した。
61)

- (43)イエスの上には、「これ Tī伊ê頂面有斬條寫講： イエスの頭の上には、
はユダヤ人の王」と書い 「這個是猶太人ê王。」 「これはユダヤ人の王」
た札がかけてあった。(と書いた札も掲げてあっ
23-38) た。

文例(12)では「期間」、(13)~(17)では「日」、(18)では所を表す固定名詞「ナザレ」、(19)では「所」、(20)では所を表す固定名詞「ベテパゲとベタニヤ」、(21)では「村」、(22)では「幼な子」、(23)では「群衆」、(24)では「者」、(25)(26)では「人」、(27)では「民衆」、(28)(29)(30)では「人」、(31)では「家令」、(32)では「僕」、(33)では「子」、(34)では「僕」、(35)では「者」、(36)では「まわし者ども」、(37)では「預言者」、(38)では「勅令」、(39)(40)では「権威」、(41)では「草」、(42)では「お言葉」、(43)では「札」というふうにいずれも従属節表現がなされている。特に時間を表す「日」、空間を表す「所」、漫然と人を指す一般名詞「人」などの場合はこの特徴が一層はっきりと見える。つまり、上述した文例の内、(12)~(17)は「日」グループ、(18)~(21)は「所」グループ、(22)~(37)は「人」グループにそれぞれ属している。言い換え

れば、これらの名詞の意味内容は漫然と何かを指すうつわのようなものであり、具体的なイメージが浮んでこないのが、何らかの連体修飾語を付け加えることによって始めて意思疎通ができるから、従属節表現が好んでなされているのである。もちろん、「期間」「村」「幼な子」「群衆」「家令」「僕」「まわし者ども」は多少その名詞自体に具体的な意味内容を備えているが、日本語は台湾語と比べて、従属節表現をより多く使うのが一つの特徴と言えよう。もっとも、口語訳⁽¹⁴⁾では「敵が周囲に壘を築き、おまえを取りかこんで、四方から押し迫り、おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上にも残して道かない日が来るであろう」のように「日」の前に四つもの長たらしい連体修飾語が付いたものである従属節表現は「日」まで読みきらないと、具体的意味把握が難しいというような、人をいらだたせるおそれがなくもないから、新共同訳では台湾語訳と同じく、「時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう」のように「時が来る」を先に述べた上で、この「時」に、具体的な意味内容を後から一一付け加える表現を取っている。だからといって日本語の意思疎通によいて従属節表現がごく特殊な場合を除いて愛用される自体には昔でも今でも変わりはないようだ。ちなみに口語訳の「日」は、台湾語訳の“日子・時日・日”、新共同訳の「日・時」に相当する。

3.3 被修飾語が文末“ê”付きの提示語^⑥の場合

次の文例をまず見られたい。

(44) これは、クレニオがシリ 這項報戶口ê制度是居里 これは、キリニウスがシ

⑥ここでの「提示語」は主題文の「主題」に相当するもので、日本語ではいわゆる係助詞「は」は多用されるのが常である。

⑦日本語訳では従属節表現がなされるのと対照的に台湾語訳では主題文であることに注目されたい。

ヤの総督であった時に行 扭做叙利亞總督ê時，頭
われた最初の人口調査で 一擺來實施ê。
あった。(2-2)

(45)『わたしたちの足につい 「連恁ê 城ê土粉，tiâu
ているこの町のちりも、 tī阮ê 腳ê，阮也beh kā
ぬぐい捨てて行く。しか 拭去，總是恁著知上帝ê
し、神の国が近づいたこ 國近lah。」
とは、承知しているがよ
い』。(10-11)

(46)また、シロアムの塔が倒 抑是彼18個人，hō 西羅
れたためにおし殺された 亞ê塔倒落來teh死ê，恁
あの十八人は、エルサレ 拍算個比攏重khiā khí
ムの他の全住民以上に罪 tī耶路撒冷ê人犯罪khah
の負債があったと思うか。 重嗎？
(13-4)

(47)食事ののち、杯も同じ様 食了後捧杯也是án ni 講
にして言われた、「この : 「這個杯是新約，tī我
杯は、あなたがたのため ê血來設立ê，就是為著恁
に流すわたしの血で立て 流出ê。
られる新しい契約である。
(22-20)

(48)それを取りおろして亞麻 就收伊落來，用幼底布包
布に包み、まだだれも葬 伊，下tī石鑿ê 墓，攏未
ったことのない、岩を掘 bat埋葬人ê。
った墓に納めた。(23、
53)

リア州の総督であたとき
に行われた最初の住民登
録である。

『足についたこの町の埃
さえも払い落として、あ
なたがたに返す。しかし、
神の国が近づいたことを
知れ』と。

また、シロアムの塔が倒
れて死んだあの十八人は、
エルサレムに住んでいた
ほかのどの人人よりも、
罪深い者だったと思うの
か。

食事を終えてから、杯も
同じようにして言われた。
「この杯は、あなたがた
のために流される、わた
しの血による新しい契約
である。

遺体を十字架から降ろし
て亜麻布でつつみ、まだ
だれも葬られたことのない
岩に掘った墓の中に納
めた。

台湾語訳(44)～(48)ではいずれも一種の主題文と考えられており、しかも先に提出された被修飾語は重複を避けるための、日本語の「の」に相当する“ê”を置いて、前後相応の形をなすことに注意されたい。つまり、(44)では“報戸口ê制度……ê”、(45)では“連恁ê城ê土粉……ê”、(46)では“彼18個人……ê”、(47)では“新約……ê”、(48)では“下ti石鑿ê墓……ê”のようにこれらの文例はいずれも核心語である主題の意味内容を相手に一層分かってもらうために、主題について一旦説明的に表現しておいて、次に「の」に当たる“ê”で総合的に再表現するのである。これは言いたい対象を明確にすることを目的とする表現である。つまり、文末の“ê”は松大氏の名助詞あるいはAlfonso氏のいわゆる英語の“This is John's”の所有格の部分の概念を意味するものであり、あたかも表現された一枚の絵画の後ろにかなり広い認識が隠れているものと同様に、認識があっても表現されてはいないのである。台湾語訳のこの種の表現とは対照的に日本語訳ではすべて従属節が用られている。もっとも口語訳と新共同訳では用語の違いこそあれ、従属節表現という点で一致しているのは上述した例文で分かる。ちなみに文例(46)については口語訳では「罪の免債があった」は存在文、台湾語訳では“犯罪 kah 重”、新共同訳では「罪深い者」というふうに日本語では従属節表現偏重の傾向の一端がうかがえるでる。

3.4 被修飾語が重出の場合

次の文例を見られたい。

- | | | |
|--|---|---|
| (49) ヨセフもダビデの家系で
あり、またその血統であ
ったので、 <u>ガリラヤのベ</u>
<u>ツレヘム</u> というダビデの
<u>町</u> へ上って行った。それ
は、すでに <u>身重</u> になって | 約瑟ê世系屬ti大畢ê家，
所以對加利利ê 拿撒勒城
，就去猶太，到大畢ê 城
，名叫伯利恆ê，beh及伊
所定婚ê 馬利亞相及報戸
口。彼時馬利亞已經有身 | ヨセフもダビデの家に属
し、その血筋であったの
で、 <u>ガリラヤの町ナザレ</u>
<u>ム</u> から、 <u>ユダヤのベツレヘ</u>
<u>ム</u> というダビデの <u>町</u> へ上
って行った。 <u>身</u> ごもって |
|--|---|---|

- いたいいなづけの妻のマ 。
 リヤと共に、登録をする
 ためであった。(2-4.5)
- (50)ある日のこと、イエスが 教示人；
 教えておられると、ガリ 有法利賽人及法律法ê 先
 ラヤやユダヤの方々の村 生tī hiah 坐，個是對加
 から、またエルサレムか 利亞各郷社，及猶太及耶
 らきたパリサイ人や律法 路撒冷來ê。
 学者たちが、そこにすわ
 っていた。(5-17)
- (51)すなわち、神の家にはい 伊入上帝ê厝，thêh獻祭ê
 って、祭司たちのほかだ 餅來食，koh kō 伊跟 tè
 れも食べてはならぬ供え ê人；這號餅若m是祭司，
 のパンを取って食べ、ま 就攏m應該食。
 た供の者たちにも與えた
 ではないか」。(6-4)
- (52)町の門に近づかれると、 Beh 近城門，tū好有人扛
 ちょうど、あるやもめに 一個死人出來，伊ê老母
 とってひとりむすこであ 孤孤生這個kiaⁿ，koh 是
 った者が死んだので、葬 守寡，城內有chōe chōe
 りに出すところであった。人teh送伊。
 大ぜいの町の人たちが、
 その母につきそっていた。
- いた、いいなづけのマリ
 アと一緒に登録するため
 である。
 ある日のこと、イエスが
 教えておられると、ファ
 リサイ派の人々と律法の
 教師たちがそこに座って
 いた。この人々は、ガリ
 ラヤとユダヤのすべての
 村、そしてエルサレムか
 ら来たのである。主の力
 は働いて、イエスは病氣
 をいゃしておられた。
 神の家に入り、ただ祭司
 のほかにはだれも食べて
 はならない供えのパンを
 取って食べ、供の者たち
 にも与えたではないか。」
 イエスが町の門に近づか
 れると、ちょうど、ある
 母親の一人息子が死んで、
 棺が担ぎ出されるところ
 だった。その母親はやも
 めであって、町の人が大
 勢そばに付き添っていた。

(7-12)

- (53) また悪霊を追い出された 也有幾若個婦人人，有ê 悪霊を追い出して病気を
病気をいやされた数名の bat患著鬼，有ê bat破病 いやしていただいた何人
婦人たち、すなわち、七 taⁿ 已經得著醫好，其中 かの婦人たち、すなわち、
つの悪霊を追い出しても 有抹大拉ê馬利亞，bat有 七つの悪霊を追い出して
らったマグダラと呼ばれ 七個鬼對伊出去。 いただいたマグダラの女
るマリヤ。(8-2) と呼ばれるマリア。

- (54) 道ばたに落ちたのは、聞 Tī 路邊ê，就是指人聽見 道端のものとは、御言葉
いたのち、信じることも 道理；應鬼就來對個ê 心 を聞くが、信じて救われ
救われることもないよう 內將道理搶出，免得個信 ることのないように、後
に、悪魔によってその心 來得著救。 から悪魔が来て、その心
から御言が奪い取られる から御言葉を奪い去る人
人たちのことである。(たちである。

8-12)

- (55) 岩の上に落ちたのは、御 Tī 石磐頂ê，就是人聽了 岩石のものとは、御言葉
言を聞いた時には喜んで 歡喜承受道理；m̄ kú個無 を聞くと喜んで受け入れ
受けいれるが、根がない 根，是暫時信 nā tiāⁿ， るが、根がないので、し
ので、しばらくは信じて tū著試鍊 ê時，就違背道 しばらくは信じて、試練
いても、試鍊の時が来る 理。 に遭うと身を引いてしま
と、信仰を捨てる人たち う人たちのことである。
のことである。(8-13)

- (56) いばらの中に落ちたのは、落 tī 棘仔内ê，chiah ê就 そして、茨の中に落ちた
聞いてから日を過ごす 是人聽了就去，hō' 在生ê のは、御言葉を聞くが、
ちに、生活の心づかいや 掛慮貨財安樂所遮蔽就m̄ 途中で人生の思い煩いや
富や快樂にふさがれて、 成粒。 富や快樂に覆いふさがれ
実の熟するまでににならな て、実が熟するまでに至

い人たちのことである。

(8-14)

(57) 良い地に落ちたのは、御
言を聞いたのち、これを
正しい良い心でしっかり
と守り、耐え忍んで実を
結ぶに至る人たちのこと
である。

(58) そこでわたしの友である
あなたがたに言うが、か
らだを殺しても、そのあ
とでそれ以上なにもでき
ない者どもを恐れるな。

(12-4)

(59) 自分の持ち物を売って、
施しなさい。自分のため
に古びることのない財布
をつくり、盗人も近寄ら
ず、虫も食い破らない天
に、尽きることのない宝
をたくわえなさい。(12
-33)

(60) 主人が帰って来たとき、
目を覚めているのを見ら
れる僕たちは、さいわい
である。よく言うておく。
主人 到看見個警醒，hiah
ê 奴僕有福氣，我實在kā
恁講，主人 beh hō̍ 個坐
桌，家己hā帶，進前來伺

らない人たちである。

Tī好土地ê，chiah ê就是
人用好koh善良ê心聽道理
來執守伊，koh 吞忍來結
實。

「我ê 朋友ah！我kā恁講
，害死恁身軀了後儂做別
項ê，莫得驚個。

良い土地に落ちたのは、
立派な善い心で御言葉を
聞き、よく守り、忍耐し
て実を結ぶ人たちである
。」

「友人であるあなたがた
に言うておく。体を殺し
ても、その後、それ以上
何もできない者どもを恐
れてはならない。

着賣恁所有ê 來賑濟人；
為著恁本身備辦舊去ê 錢
袋，tī天裡用儂了ê 財寶
，就是賊儂到，虫蝕蛀ê
所在。

自分の持ち物を売り払っ
て施しなさい。擦り切れ
ることのない財布を作り、
尽きることのない富を天
に積みなさい。そこは、
盗人も近寄らず、虫も食
い荒らさない。

主人が帰って来たとき、
目を覚ましているのを見
られる僕たちは幸いだ。
はっきり言うておくが、

主人が帯をしめて僕たち 候。

を食卓につかせ、進み寄

って給仕をしてくれるで

あろう。(12-37)

主人は帯を締めて、この

僕たちを食事の席に着か

せ、そばに来て給仕して

くれる。

(61) 主人が帰って来たとき、伊ê主人來看見伊án ni行

そのようにつとめている，彼個奴僕有福氣。

のを見られる僕は、さい

わいである。(12-43)

主人が帰って来たとき、

言われたとおりにしてい

るのを見られる僕は幸い

である。

(62) ちょうどその時、ある人 當彼時^有幾著人tī-teh，

々が来て、ピラトがガリ 將加利利人ê 事kā耶穌講

ラヤ人たちの血を流し、，就是彼拉多特加利利人

それを彼らの犠牲の血に ê血摻tī個ê牲禮彼項事。

混ぜたことを、イエスに

知らせた。(13-1)

ちょうどそのとき、何人

かの人が来て、ピラトが

ガリラヤ人の血を彼らの

いけにえに混ぜたことを

イエスに告げた。

(63) それなら、十八年間もサ 這個婦人人是亞伯拉罕ê

タンに縛られていた、ア 後裔，hō'撒但縛伊，已

ブラハムの娘であるこの 經十八年久kiám m應該tī

女を、安息日にあっても、安歇ê日tháu伊ê結嗎？」

その束縛から解いてやる

べきではなかった」。

(13-16)

この女はアブラハムの娘

なのに、十八年のも間サ

タンに縛られていたのだ。

安息日にあっても、その

束縛から解いてやるべき

きではなかったのか。」

(64) 大ぜいの民衆と、悲しみ Tê伊ê 人有百姓及婦人人

嘆いてやまない女たちの chōe chōe，婦人人為著

群れとが、イエスに従っ 伊搥胸哀傷。

て行った。(23-27)

民衆と嘆き悲しむ婦人た

ちが大きな群れを成して、

イエスに従った。

文例(49)～(64)に関しては、日本語の従属節内の被修飾語は台湾語訳では文法格が
違う形で別別の構文に組み込まれているので注意したい点であろう。これらを表
にまとめれば次の通りである。

文例番号	被 修 飾 語	文 法 格
49	“ 馬利亞 ” “ 馬利亞 ”	同伴格 提示語
50	“ 法利賽人及法律法 [^] e 先生 ” “ 個 ”	主 格 提示格
51	“ 獻祭 [^] e 餅 ” “ 這號餅 ”	対 格 提示語
52	“ 人 ” “ 伊 ”	主 格 属 格
53	“ 馬利亞 ” “ 伊 ”	主 格 奪 格
54	“ 道理 ” “ 道理 ”	対 格 対 格
55	“ 道理 ” “ 道理 ”	対 格 対 格
56	“ [^] e ” “ chiah [^] e ”	提示語 提示語
57	“ [^] e ” “ chiah [^] e ”	提示語 提示語
58	“ 我 [^] e 朋友 ” “ 恁 ”	独立格 与 格
59	“ 天裡 ”	場所格

	“ 所在 ”	述 語
60	“ 個 ” “ 奴僕 ”	主 格（従属節） 提示語
61	“ 伊 ” “ 奴僕 ”	主 格（従属節） 提示語
62	“ 事 ” “ 彼項事 ”	対 格 述 語
63	“ 婦人人 ” “ 伊 ”	提示語 対 格
64	“ 婦人人 ” “ 婦人人 ”	主 格（存在文） 提示語

この表で明らかなように従属節表現を通じて文全体の主語の統一を好む日本語と違って台湾語訳では同一の被修飾語は文全体の中に組み込まれる時、その文法関係が必ずしも一致しているとは限らないのが常であろう^⑧。言い換えれば、台湾語にとっては文脈の上でしばしば主語を変えるにやぶさかではない。これが、日本語の従属節内の被修飾語に相当する台湾語のものがときには主格・提示語、ときに対格・提示語といった具合で、文法格に富んでいる所以であろう。実際文例(56)(57)はいずれも分裂文であるが、日本語訳では提示語は一つであるのに台湾語訳では「の」に相当する“[^]e”が重出することに注意されたい。

⑧日本語の表現が文全体の主語の統一を図ることはすでに石綿（1990）が指摘しているが、従属節表現が多用される現象には言及していないようだ。

3.5 その他

- (65) 主のお語りになったこと 有信心ê 婦人人有福氣ah 主がおっしゃったことは
が必ず成就すると信じた ，因為主所kā伊講ê話beh 必ず実現すると信じた方
女は、なんとさいわいな 實現。 は、なんと幸いです
ことでしょう」。(1-
45)
- (66) パリサイ人は立って、ひ 法利賽人倚 teh，家己祈 ファリサイ派の人は立っ
とりでこう祈った。『神 禱講：『上帝ah，我感謝 て、心の中でこのように
よ、わたしはほかの人た 你，因為我無親像別人勒 祈った。『神様、わたし
ちのような貪欲な者、不 索、不義、姦淫，也無親 はほかの人たちのように、
正な者、姦淫をする者で 像這個稅務員， 奪い取る者、不正な者、
はなく、また、この取税 姦通を犯す者でなく、ま
人のような人間でもない た、この徴税人のような
ことを感謝します。(18 者でもないことを感謝し
-11) します。
- (67) 彼はヨルダンのほとりの 伊就到約旦河ê 四方，傳 そこで、ヨハネはヨルダ
全地方に行って、罪のゆ 反悔ê洗禮，hō 人得著赦 ン川沿いの地方一帯に行
るしを得させる悔改めの 罪。 って、罪を赦しを得させ
バプテスマを 宣べ伝えた。 るために悔い改めの洗礼
(3-3) を 宣べ伝えた。
- (68) そして、その名によって Ah反悔及赦罪ê 道理beh また罪の赦しを得させる
罪のゆるしを得させる悔 tī伊名來傳到萬邦，是對 悔い改めが、その名によ
改めが、もろもろの国民 耶路撒冷起。 ってあらゆる国の人々に
に宣べ伝えられる。(24
-47) ルサレムから始めて。

- (69) 「あなたはわたしの愛する子、わたしの心になう者である」。(3-22)
- (70) だから、あなたがたは、自分の先祖のしわざに同意する証人なのだ。先祖が彼らを殺し、あなたがたがその碑を建てるのだから。(11-48)
- (71) この処女はダビデ家の出るヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリアといった。(1-27)
- (72) イエスと一緒にガリラヤからきた女たちは、あとについてきて、その墓を見、またイエスのからだが納められる様子を見とどけた。(23-55)
- (73) 彼らがイエスをひいてゆく途中、シモンというクレネ人が郊外から出てきたのを捕えて十字架を負わせ、それになってイエスのあとからいかせ。(
- 「你是我所疼^ê kiāⁿ，我歡喜你。」
- Añ ni就是恁^ê 祖所做^ê，恁^ê 歡喜；因為恁^ê 害死先知，ah恁^ê 造先知^ê 墓。
- 附近有一個在室女，是已經配定著hō[·] 大畢家^ê一個人的，名叫約瑟，這個在室女名叫馬利亞。
- 對加利利及耶穌及來hiah^ê 婦人人tè toà後面，看伊^ê 墓，koh看怎樣下伊^ê 身屍。
- 帶耶穌去^ê 時，有一個古利奈^ê 人，西門對鄉下來，恁^ê 將khiū伊來，將十字架khoa[·] tī ^ê肩頭，hō[·] 伊giā來tè耶穌。
- 「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」
- こうして、あなたたちは先祖の仕業の証人となり、それに賛成している。先祖は殺し、あなたたちは墓を建てているからである。
- ダビデ家のヨセフという人のいいなづけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。
- イエスと一緒にガリラヤから来た婦人たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスの遺体が納められている有様とを見届け、
- 人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出で来たシモンというクレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。

- (74) わたしたちの間に成就さ 因為有 chōe chōe 人將咱 わたしたちの間に実現し
 れた出来事を、最初から 中間已經發生過 ê 事，bat た事柄について、最初か
 親しく見た人々であって、kiah 筆來 kâ 寫做傳記。就 ら目撃して御言葉のため
 御言葉に仕えた人々が伝 是照 hia ê 做道理 ê 差用 ê に働いた人々がわたした
 えたとおりの物語に書き連 人，對起頭親目看見，來 ちに伝えたとおりに、物
 ねようと、多くの人が手 傳 hō 咱 ê； 語を書き連ねようと、多
 を着けましたが。(1- 多くの人々が既に手を着け
 -1.2) ています。
- (75) 人々としてほしいと、あ 恁愛人怎樣款待恁，也着 人にしてもらいたいと思
 なたがたの望むことを、 án ni 款待人。 うことを、人にもしなさ
 人々にもそのとおりにせ い。
 よ。(6-31)
- (76) そこでイエスが言われた。耶穌對個講：「無知 ê 人 そこで、イエスは言われ
 「ああ、愚かで心のにお ah！先知所講一切 ê 話， た。「ああ、物分かりが
 いため、預言者たちが説 恁 ê 心怎樣 hiah oh 信 ah！ 悪く、心が鈍く、預言者
 いたすべての事を信じら たちの言ったことすべて
 れない者たちよ。(24- を信じられない者たち。
 25)

文例(65)～(75)の内、(76)(70) 2 例の新共同訳を除いて、すべてが従属節表現になっ
 ている。これに対して台湾語訳においては種種雑多な表現がなされている。(65)(66)で
 は原因表現、(77)では目的表現をそれぞれ取っている。(68)では日本語訳の「罪のゆる
 しを得させる悔改め」に対して、「罪のゆるしを得させる」に相当する“赦罪”
 に“ê 道理”を付け加えたものと、「悔改め」に相当する“反悔”とを“及”で
 つなぐ名詞一つの表現を用いている。(70)では日本語訳の文全体の主語が一致して

いるが、台湾語訳ではそうではない。(70)(71)では日本語は「証人」「いいなづけ」の「名詞」表現、台湾語は“干証”“配定”の「動詞」表現を対照的に取っている。一見して、日本語表現は動詞偏重であるという通説と矛盾しているようだけれども、文全体の主語統一偏重と比べれば、後者に優先順位を付けた方がよからう。^⑨(72)に至っては日本語訳では「イエスのからだが納められる様子」「イエスの遺体が納められている有様」、台湾語訳では「怎樣下伊^ê身屍」というように、日本語は台湾語と違って「こと」的に動詞を好んで使う傾向があることは間違わない。実際(73)についてもこの原理にあてはまる。(74)に関しては、日本語訳では形式名詞「とおり」「とおりに」、台湾語訳ではこれに相当する形式名詞“照”をそれぞれ使っている。前者は「副詞組」として文全体の中に組み込まれているが、後者は独立した一文をなしている。この点から見れば、日本語の従属節表現が望ましいこと自体変わりはない。この点から見れば、日本語の従属節表現が望ましいこと自体変わりはない。この点から見れば、日本語の従属節表現が望ましいこと自体変わりはない。(75)(76)に即し、日本語訳では「こと」「者」を取っているのとは対照的に、台湾語ではこれに対応する表現がなされてはいないことが分かる。

⑨池上嘉彦氏は(b)より(a)の方が普通であるという例をあげて、ヨーロッパ語は「もの」的に表現し、日本語は「こと」的に表現すると指摘している。

(a)子供が泣いているのに出会ったよ。

(b)泣いている子供に出会ったよ。

(c)I saw a child weeping.

実際小稿の文例(73)では口語訳「シモンといラクレネ人が郊外から出てきたのを捕えて」は(a)に相当し、新共同訳「田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて」は(b)に相当するところが注目されよう。

4. まとめ

上述したところをまとめると次のようである。第一に量的に 76 対 354 という約 20% 強の割合に日本語訳は従属節表現がなされているのに対し、台湾語訳では多種多様な表現が用いられている。第二に構文が存在文の場合、一般名詞が「日」「所」「人」の場合は日本語は従属節表現を使う傾向がある。第三に日本語は「こと」的に動詞表現を好んで使うのに対し、台湾語は「もの」的に名詞表現をよく用いる点でむしろヨーロッパ語に似ている言えよう。語彙的に統語的に多少の差が見られるのも当然のことである。^⑩従属節表現が愛用されることには一向差異はない。そして、日本語に関しては文全体の主語を一致させるために従属節表現が好んで多用されるという基本的原則はこの四点で貫かれていると結論を下せるだろう。これは長く文を言い続ける平安朝の日本語にもつながっている。

かくて小稿を通して日台語の特徴の一端をはっきりさせ、口語訳と、30 年あまりたった新共同訳との間には語彙的に相違こそあれ、統語的に従属節表現を好む点が一致していると言えよう。

参考文献

- 1) 池上嘉彦 1981『「する」と「なる」の言語学』大修館
- 2) ——— 1982「表現構造の比較——〈スル〉的な言語と〈ナル〉的な言語」
『日英語比較講座 4』大修館
- 3) 石綿敏雄共著 1990『対照言語学』桜楓社

^⑩例えば口語訳（1954 年刊）では「人口調査」「遊女」「家令」などであるのに対し、新共同訳（1987 年刊）では「住民登録」「娼婦」「管理人」である。

- 4) 許 極燉 1990『台灣語概論』台灣語文研究發展基金會
- 5) 国広哲弥 1985「言語と文化のタイポロジー」『月刊言語 6月号』大修館
- 6) 小川尚義 1907『日台大辞典』台湾総督府学務課
- 7) 王 育徳 1972『台灣語入門』東京中日出版社
- 8) 鄭 良偉 1989『国語常用虚詞及其台語対応詞积例』文鶴書局
- 9) 趙 順文共編 1990『生活台語』自立報系